

Management Club Report

Apr.2011/Vol.100

Monthly Opinion 《100号の原点を確認する》

2003年1月から数え8年3か月目の今月、Management Club Report は第100号に達することができました。これもひとえにご愛読いただいていた会員の皆様のご支援ご鞭撻のお陰と、心より感謝申し上げる次第です。

平時であれば、“100号記念”などと銘打って、華やかな記念号にしていたかもしれませんが、大震災の被害を受けた会員が現実に変な思いをしている最中、また自ら『東日本大震災歯科仲間支援プロジェクト』を立ち上げようとしているこの時期に、浮かれたことなどできません。

単なる追従型の“自粛”には必ずしも賛同しかねますが、やはり自画自賛的な記念号などとても出せるものではないでしょう。

私どもなりにこれまでを振り返り、これからのあり方を考える節目として100号を捉える。そういう意味での記念号にしたいと思います。

1

MCLレポートの原点『アポロニア21』

開業当初の“参考書”を未だに重用してくれる会員に感激

先日、古くからの会員である、せら歯科医院の世良健司先生（福岡県大川市）から電話があり、次のような要請を受けました。

「新人の勤務医が入りました。5月の福岡での新人研修に参加させますが、その前に、かつてアポロニアに連載された『歯科医療サービス論』を読ませたいと思います。在庫でも原稿のコピーでも構いませんので、あればお送り頂きたいのですが…」

世良先生が言う『歯科医療サービス論』とは、2000年3月から2006年12月までの7年間に亘って『アポロニア21』（日本歯科新聞社）に連載された私の歯科医院経営論シリーズの中の第2段、2001年1月から12月までの『新歯科医療サービス論』を指しています。

開業して間もなかった世良先生は、以前より『アポロニア21』での私の小論が大変参考になったと言ってくれていましたが、いまだにその思いを抱き、後輩となる勤務医にも推薦してくれていることに感激しました。

私どもにしましても、独立して半年も経たない時期でしたので、新会社のPRという意味で、業界誌に寄稿できたことは大変有難いことでしたし、実際に大きな効果をもたらしてくれました。声をかけてくれた日本歯科新聞社には大変感謝しています。

著作集からアポロニア寄稿文を探り当てた会員

また、比較的新しく会員となった方ではありますが、歯科界では存在感と影